

三枝博音 哲学者。科学・技術史研究を先駆、<敗戦>直後の{鎌倉アカデミア}をリード、<鶴見事故>で急逝した。

さいぐさひろと

大本教・・・1892 = 広島県山県郡本地村の真宗寺院に生まれ、

日清戦争始・1894 = 2歳：
「安芸門徒」と「安芸山県鉄」にかこまれた文化的風土の中で育った。

田中正造直訴1901 = **9歳**：
尋常小学校から高等小学校へとすすみ、

日露戦争終・1905 = 13歳：
広島市の西本願寺系の第四仏教中学校(現、崇徳高校)に学んだ。

韓国併合・・・1910 = **18歳**：
中学校を卒業したところで、経済的な事情もあって、進学が遅れ、
青年僧として、3年間の布教生活を過す。その話しぶりが実に爽やかで、壇徒の間に多くのファンがいたと言われる。

明治天皇没・1912 = 20歳：

21ヶ条要求・1915 = 23歳：
京都の同志社大学英文学科に進学するが、自ら望みと違い不満を感じていたところ、
郷里の先輩高楠順次郎東京帝国大学教授に会い、そのアドバイスで、熊本の第五高等学校に転じ、人間形成に大きな影響を受けた。

本格政党内閣1918 = 26歳：
五高を卒業して、東京帝国大学西洋哲学科に入学。

第一次大戦終・1919 = **27歳**：

ここで、広島県生れの医史学者富士川游博士との出会いが生れた。1年半の軍隊生活も送っている。

原敬首相暗殺1921 = 29歳：

水平社結成・1922 = 30歳：
東京帝国大学西洋哲学科卒業して、大学院に進み、結婚。処女論文も発表。

関東大震災・1923 = 31歳：

護憲三派圧勝1924 = 32歳：

立正大学助教授、国学院大学講師。
その学問的関心は、はじめ宗教的合理性の追求にあり、認識論や現象学など哲学一般の問題であったが、在学中の兵役体験などから社会的なものに移る。

共産党事件・1928 = **36歳**：

さらにディルタイからマルクス主義の研究へ進み、{ヘーゲル及弁証法研究}誌を主宰

満州事変・・・1931 = 39歳：

五一五事件・1932 = 40歳：

国際連盟脱退1933 = 41歳：

帝人疑獄事件1934 = 42歳：

二二六事件・1936 = 44歳：

日中戦争始・1937 = **45歳**：

大政翼賛会・1940 = 48歳：

日米開戦・・・1941 = 49歳：

・・・・・・1942 = 50歳：

敗戦・・・1945 = 53歳：

新憲法公布・1946 = **54歳**：

・・・・・・1942 = 50歳：

基本史料の集大成{日本科学古典全書}刊行開始、のち戦局のため中断。

東邦冶金専門学校の校長に就任。

明治大学教授につづいて、*鎌倉大学校(のち鎌倉アカデミア)の産業科長から学校長になり、

人材の育成に尽くした。

朝鮮戦争始・1950 = 58歳：

独立回復・・・1951 = 59歳：

鎌倉アカデミアが廃校となる。

「技術の哲学」、

55年体制始・1955 = **63歳**：

国連加盟・・・1956 = 64歳：

「日本の唯物論者」、

ソクソク・1958 = 66歳：

「西欧化日本の研究」などを公刊、

幅広い学識と温厚な人格で、

安保闘争・・・1960 = 68歳：

1961 = 69歳：

横浜市立大学長に就任し、

日本科学史学会会長も兼ね、すぐれた活動を示したが、

TV宇宙中継始1963 = 71歳：

*国鉄鶴見事故で急逝した。